

「日本における脳性麻痺児の主たる介護者である 母親に対する社会的支援の影響」について

1) はじめに

- 産科医療補償制度においては、分娩に関連して発症した重度脳性麻痺児とその家族の経済的負担を速やかに補償している。
- 本制度で補償対象と認定された重度脳性麻痺児（以下、「補償対象児」）は、看護・介護を行うための基盤整備の資金としての準備一時金や、看護・介護費用として毎年定期的に給付する補償分割金が補償金として支払われる。補償分割金請求時には、補償対象児（保護者）より補償請求用専用診断書（補償分割金請求用）が提出され、毎年の生活場所や日常生活、合併症や障害程度及び粗大運動状況等の情報が提供される。本情報より補償対象児の約 9 割が在宅で看護・介護を受けている等、脳性麻痺児の看護・介護の実態の一部が明らかとなった。
- そこで、「脳性麻痺児の看護・介護の実態把握に関する調査プロジェクトチーム」において、看護・介護に関わるサービスの利用状況や家族の負担感に関する情報等を収集し、脳性麻痺児の看護・介護の実態をより具体的に把握することを目的に、補償対象児の保護者を対象としたアンケート調査を行った。
- このうち、補償対象児の主たる介護者である母親の介護負担感に与える要因を取りまとめた下記論文が、2021 年 10 月に医学誌の *Journal of Pediatric Nursing* に掲載された。

【論文タイトル】

Impact of social support for mothers as caregivers of cerebral palsy children in Japan

【掲載先 URL】

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0882596321003079>

- 上記論文の概要は以下 2) のとおりである。

2) 「日本における脳性麻痺児の主たる介護者である母親に対する社会的支援の影響」について

(1) 本研究の目的

障害児の主たる介護者における心理的・肉体的負担を軽減するためには、社会的支援が重要であることから、次の2つを目的とした。

- ① 児の状態が母親の介護負担にどのように影響するかを明らかにする
- ② 母親の介護負担感を軽減する社会的支援を特定する

(2) 方法

補償対象児の母親がアンケート調査に回答した、児の状態や家族の支援状況、社会的支援の利用や満足度、および介護負担感に関するデータを対象とした横断的研究を行った。介護負担感には日本語版 Zarit 介護負担尺度 (J-ZBI) を利用して計測した。

(3) 結果

- ・補償対象児の母親が回答した 1,190 件を対象とした。
- ・対象を J-ZBI スコアの軽度群、中等度群、重度群の三群間で比較したところ、訪問サービスの訪問看護、居宅介護、訓練および外出サービスの移送サービスを利用している場合、重度群の介護負担感が他 2 群より高かった。
- ・訪問サービスの居宅介護と訓練、通所サービスの訓練や治療、短期入所サービスは、介護負担感が軽度群で、これらの社会的支援に対する満足の高かった。
- ・児の食事形態が経管栄養や経静脈栄養であることに加えて、知的障害があり、障害程度が寝たきりではない場合の母親は、介護負担感が高く、訪問サービスの居宅介護の利用が負担感の軽減に最も寄与していた。
- ・訪問サービスの居宅介護と訓練、通所サービスの訓練や治療、短期入所サービスの全てを利用した母を対象にした分析では、前述と同様に児の食事形態が経管栄養や経静脈栄養であることに加えて、知的障害があり、障害程度が寝たきりではない場合の母親は、そうでない母親より、J-ZBI スコアが 17.5 点高く、一方で短期入所サービスの利用に満足している場合、J-ZBI スコアが 11.5 点低い。短期入所サービスの利用に満足していることが母親の介護負担感の軽減に寄与していた。

(4) 結論

児に知的障害があり、障害程度が寝たきりではない場合の母親は、介護負担感が高かった。

児の主たる介護者である母親には、訪問サービスの居宅介護や短期入所サービスの利用が、介護負担感の軽減に大きく影響することが明らかとなった。

本研究はサンプルサイズが大きいため、本結果が脳性麻痺児の主たる介護者である母親の効果的な社会的支援利用体制構築に役立つと考えている。

以上